

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。センター試験まで残すところ約2ヶ月と迫ってきましたね。二次試験の対策もさることながら、センター試験でもしっかり得点できるよう、基礎をおろそかにしないようにしましょうね。難しいことに取り組むほど、基礎の大切さが身にしみるはずですよ。例えば、皆さんの論述解答を添削していると、文章全体の構成はよくなっているのだけれど、初歩的な用語のミスや漢字間違いを散見します。おしいですよ。 “神は細部に宿る” のです。ここからはまさに執念。ひとつひとつにこだわって勉強を進めて欲しいと思います。

さて、第16回となる今回は2012年の東大日本史の第3問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1週間、しっかり考えてみてください。

【2012年度 東京大学 文科前期 第3問】

次の(1)～(4)の文章は、江戸時代半ば以降における農村の休日について記したものである。これらを読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 村の定書を見ると、「休日」「遊日」と称して、正月・盆・五節句や諸神社の祭礼、田植え・稲刈り明けのほか、多くの休日が定められている。その数は、村や地域によって様々だが、年間30～60日ほどである。
- (2) 百姓の日記によれば、村の休日以外にそれぞれの家で休むこともあるが、村で定められた休日はおおむね守っている。休日には、平日よりも贅沢な食事や酒、花火などを楽しんだほか、禁じられている博打に興じる者もいた。
- (3) ある村の名主の日記によると、若者が大勢で頻繁に押しかけてきて、臨時の休日を願い出ている。名主は、村役人の寄合を開き、それを拒んだり認めたりしている。当時の若者は、総代や世話人を立て、強固な集団を作っており、若者組とよばれた。
- (4) 若者組の会計帳簿をみると、支出の大半は祭礼関係であり、飲食費のほか、芝居の稽古をつけてくれた隣町の師匠へ謝礼を払ったり、近隣の村々での芝居・相撲興行に際して「花代」(祝い金)を出したりしている。

設 問

- A 当時、村ごとに休日を定めたのはなぜか。村の性格や百姓・若者組のあり方に即して、3行以内で述べなさい。
- B 幕府や藩は、18世紀末になると、村人の「遊び」をより厳しく規制しようとした。それは、なにを危惧したのか。農村社会の変化を念頭において、2行以内で述べなさい。